

大分県臼杵地区タチウオひき縄漁業のビジネスモデル構築

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 水産総合研究センター
	公開日: 2024-07-17
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者:
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009998

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



大分県臼杵地区タチウオひき縄漁業のビジネスモデル構築

開発調査センター 資源管理開発調査グループ

研究の背景・目的

1. 沿岸漁業は、地域の基幹産業ですが、昨今の燃油高騰に伴う諸資材価格の上昇による経費増に加え、対象資源の減少と魚価安が同時に進行するなど、漁業経営は厳しく、地域経済に悪影響を及ぼしつつあります。
2. これを克服するためには、沿岸漁業において、生産から加工・流通販売までを含めた一貫した経営改善、即ちビジネスモデルの構築が求められています。
3. 本研究では、西日本では一般的に営まれているタチウオひき縄漁業を対象とし、全国でも有数のタチウオ生産県である大分県臼杵地区において、沿岸漁業のビジネスモデル構築のための実証化調査に取り組みました。

研究成果

1. 従来の2人操業から1人でも操業を可能とするために、関係企業と連携して省力化機器類の開発に取り組みました。揺れる船上でも漁獲物重量が簡単に計測可能で既存の電子天秤よりも安価な台秤（図1）、自動的に釣針が海中に投入される投縄装置（図2）、既存の擬似餌よりも耐久性、釣獲能力に優れている新擬似餌（図3）は、既に各メーカーより販売されています。なお、船上台秤は特許（特願2012-126463号）として、投縄装置は実用新案（実用新案登録第3182965号）として申請しました。



図1. 製品化された船上台秤



図2. 投縄装置（操業準備が完了）



図3. スチレン系素材で開発した新擬似餌

2. 6インチ型新擬似餌（図3、下）は、耐久性が優れているだけでなく、タチウオの小型個体の釣獲を抑えることも確認され、資源保護にも効果があると期待されます。これらの機器類の開発により、労力が軽減されるとともに、安全を確保した操業が可能となりました。
3. 臼杵市、漁協、地元の高校、業者と連携して地元でのタチウオの消費拡大を検討した結果、商品価値の低かった小型のタチウオを、弁当の素材として販売することを実現しました。
4. 大分県水産研究部、瀬戸内海水産研究所との連携により、タチウオ資源の解析と将来予測が可能となりました。

波及効果

1. 操業の効率化として開発した漁労機器類では、新擬似餌が臼杵地区を中心に普及が進んでいます。また、資源解析手法は大分県で資源保護に活用されることが期待されました。